

後期終業式

3月21日（火）に、後期終業式が行われた。館長式辞では、宮本武蔵が弟子の寺尾孫之允に『五輪書』とともに与えた『独行道』の一部が紹介された。二十一箇条のひとつ、「我事におゐて後悔をせず」という言葉だ。以下は館長講話の一部である。

「自己存在の究極の肯定」とも言われるこの言葉は、いったいどういう意味か、考えてみたい。後悔というのは人間につきものかもしれない。しかし、現在の自分の存在こそがまぎれもない事実であり、その自分をそのまま認めることが大切なのである。後悔という言葉でごまかすのではなく、自分自身を見つめること、それが「自己存在の究極の肯定」であり、だからこそ後悔をせずに生きていくべきなのだ。そして、困難に直面したとき、あきらめて後悔に飲み込まれるのではなく、覚悟をもって向き合い、あきらめずに食らいつくその姿勢こそ、究極の未来志向と言えるのではないだろうか。それを館生にも望みたい。

終業式は館長式辞と館歌斉唱で終わり、そのあと主任主事講話、表彰式、来年度の生徒海外派遣の案内、今年で本校を離れる EAS（英語活動指導員）のアンディ先生の“Farewell Speech”と続いた。

多くの学びを得たであろうこの1年、その学びを次の年にどのようにつなげるか、各々が考える春休みにしてほしい。

